

上醍醐〔麓より山上まで三十七町にして、一町毎に標石あり、石面に梵字をきざむ、権僧正成賢の筆なり。山腹瀧が樋不動堂より女人の登山を制禁す〕

清瀧社〔龍神影向石社壇の内にあり〕醍醐水〔闕伽井ともいふ〕五大堂〔不動明王は開山聖宝の作、四尊は理會僧都

の作なり、延喜帝の御願にして、朝敵平将門降伏のためつくり給ふ本尊なり〕如意輪堂〔本尊如意輪觀世音を安置す、

聖宝の作なり、西国順礼所にして第十一番なり〕薬師堂〔本尊薬師仏は惠理僧都の作なり。堂内に准胝觀音を安置す。

觀音堂回祿の後こ、にうつす〕祖師堂〔中央聖宝尊師、南は弘法大師、北は觀賢僧正なり。又尊師大峯において悪蛇を

退治し給ふ三尺の劍、則聖宝の作なり。悪蛇の鱗二品とも堂内にあり〕

寂靜谷〔祖師堂の北にあり。毎歳七月五日六日、当山の千日詣とて群參し、此所までもゆくなり。つねは人跡稀なり〕

夫当山は松杉蓊鬱として常に白雲横つて路を封ず、山頭巍々として旭日の出る事遅し、靈泉は滾々と玉を注ぐが如く、

堯の時徳茂し清平なれば醴泉出、夏后の時俊才官に在る時は則醴泉湧といひしも、此醍醐水のたぐひなるべし。